



2024年4月

急性関西人症候群に関する一考察

今回、急性関西人症候群（AKS）の原因・経過・治療法・予後等に関する考察をまとめた。得られた新知見は必ずしも多くないが、臨床上、有意義な点も幾つか存在すると考えるので、ここに公表したい。緑樹会学術奨励賞の授与をご検討いただければ幸いである。

急性関西人症候群（Acute Kansai syndrome）

某協会のCMにおいて、東京から転勤で関西（大阪あたり？）に単身赴任してきた独身男性が急激に「関西化」してしまうという症例を発表していた。彼は「なんでやねん」と一人ツッコミを入れ、「ホテル」といえば「ニュー～アワ～ジ～♪」、「お仏壇の」といえば「ハマヤ～」と即座に反応する。アイスコーヒーのことを「冷コー」と言ってしまうたりして発語異常を生じてしまう。自己同一性の損壊を来した彼は某医院を受診、「急性の関西人やね」と診断されていたのである、知らんけど。

さて、この彼の疾患であるが、「急性関西人症候群（Acute Kansai syndrome）」として報告された（2020年「某医師会機関紙」）。この急性関西人症候群は、数十年前には「〇〇やおまへんか」、「でんがな・まんがな」などと発する旧制関西人症候群であったが、それらの罹患者は急逝するにいたり、現在は根絶されている。

この急性関西人症候群（AKS）は「なんでやねんウイルス」（KYK551ウイルスともいわれる）の中樞神経系へ感染が原因である。このウイルスに対する親和性を持つ者あるいは関西免疫不全状態の者が感染することが多い。感染経路はまだ確定していない。「なんでやねん」と肩を叩かれた際に感染するとする接触感染、もしくは「六甲おろし」にウイルスが含まれるとする空気感染とも言われるが定かではない。あるいは淀川の水からの経口感染とする説もある。しかし、「六甲のおいしい水」を飲用する者にも発症することもあるとされる。潜伏期間は明確ではないが1日～100年とされる。

リンパ球に「なんでやねんウイルス」に対するレセプター（NYNreceptor）があり、リンパ球に感染、ことにTリンパ球に感染すると急速にTigers化し、G因子（いまだに実態が確認されていない）を排除するように働き、大脳前頭葉の変容が見られる。これが「関西人症候群」の本態である。この関西人症候群は、超急性期には自覚症状に乏しく、味覚の変化や発言のイントネーションが気になる程度であるが、急性期（いわゆる急性関西人症候群）には「ポケ・つつこみ」徴候、「知らんけど」発言、「ホテルにゅーあわ痔」の3徴を呈し、通天閣や甲子園球場を聖地とみなすような幻覚が現れる。味覚の変化も特徴的で、アメちゃんやタコ焼きを渴望し、お好み焼きにご飯・ラーメンにご飯といった「粉モン・コラボ」の嗜好変化によりメタボリック症候群を合併することも稀ではない。音声の変化は病状として顕著で、慢性期には「まくど」、「なんばほーらい」、「ひっしのぱっち」、「アレ」、「おーん」など意味不明の言語を話すようになり、「みっくちゅじゅーちゅ」、「ヨロガワのミル」、「ドンつき」、「アマシンにきいたらええやん」などの不明瞭言語がみられるようになると廃退期・末期で予後は悪い。最終的に「やってられへんは」、「ほな、さいなら」とか意味不明な発言をしながら道頓堀にダイブするという。カーネルサンダースの呪いなる陰謀が一時説かれたこともあったが、それは解かれたようだ。

疫学的には患家にはタコ焼き器の所有が高確率であるとされ、エスカレーターでは右側に並ぶ（京都では逆であるという）。性差は確認されていないが、女性ではアメちゃん携帯症候群やヒョウ柄着用症候群を合併することもあるとされる。

治療法はいまだ確立されておらず、突発性、進行性の経過をとるため対症療法のみである。将来、なんでやねんウイルスに対するワクチンの開発が待たれる。

平成2年卒 児玉 岳

閉じる